

南半球便り（その 34）：キャンベラの春

9 月 15 日

ついに、キャンベラに春が来ました。「何もない春♪」ではありません。

残暑や雨天に悩まされている日本の方には、「今頃???'という感じでしょうが、赤道を越えて春の歓びを分かち合いたく、キーボードを叩いています。



大使公邸の日本庭園に咲く木瓜と牡丹の花が春の訪れを告げる

1. 永すぎた冬

「キャンベラの冬は永いですよ。」

今は退官してサンシャイン・ステートと呼ばれるクイーンズランド州の温暖な気候を満喫している豪州の外交官から言われました。

確かに、4 月末の ANZAC デイあたりから暖房を入れ始め、今も付け続けているくらいです。したがって、東京でクールビズが続いている期間は、キャンベラではヒーター入れっ放しという案配です。

2. 春の訪れ

豪州での初めての冬を経験しました。ただ、真冬とはいっても、日中の最高気温が 10 度を上回る日が殆どなので、北米や欧州のように寒波に震え続けるほどではありません。また、燦々と陽光が降り注ぐ日が多いので、欧州の幾つかの場所と違って、陰鬱な暗い世界に閉じ込められることもありません。

とは言っても、やはり、近づく春は華やぎと気分の高揚をもたらしてくれるものです。

まずは、梅。大使公邸の庭に立つと、東風無くしても、ほのかな香りに包まれました。2 年間で過ごした水戸の偕楽園を思い出しました。



日本の梅

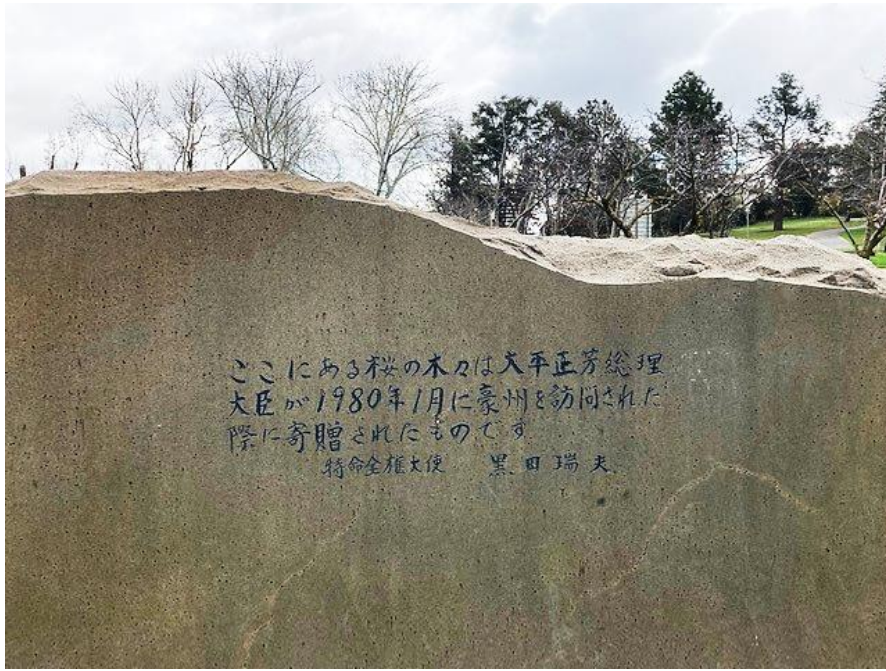
3. 開け，万朶の桜

先々週は，最高気温が 20 度を上回る日が数日続きました。そうになると，次は桜です。大使公邸の庭はもちろんのこと，町の中央に位置する湖沿いにも立派な桜並木がそこここにある，満開の時期を心待ちにしています。

やがて，緑豊かなキャンベラの街並みに，白やピンク，桜や梨，プラムのカノピーがアクセントを付けることになるでしょう。湖沿いには，大平総理大臣が豪州を訪問された際に寄贈，植樹された桜が植わっています。まさに桜は，日本食と並ぶ貴重なソフトパワーの源だと改めて認識しています。



春めいてきたキャンベラ



大平正芳総理大臣が桜の木々を寄贈した際の記念石碑

4. つらーい春

花粉症を抱えた方には辛い時期ですよ。元々、私は何ともなかったのですが、東京にいた数年前からどうやら限界に近づいてきたようで、くしゃみや充血に見舞われるようになりました。

南半球で生態系が変わったので、どうかなと思っていたのですが、あるある。憎きヒノキ花粉も飛んでいます。聞くところによるとオーギーでも悩まされている方が少なくないようで、ドラッグストアに行くと強力な薬が揃っています。



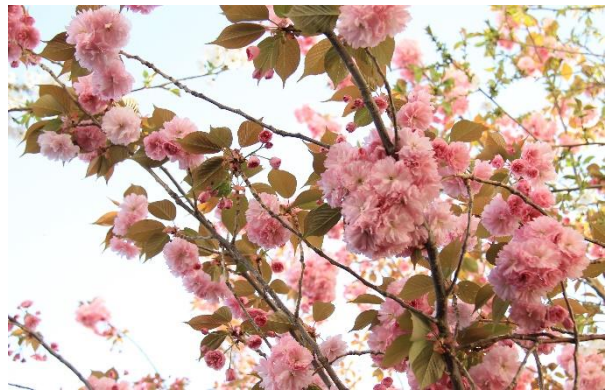
国花のミモザ（ゴールデン・ワトル）の花は花粉症の時期に咲くが、
実際は杉や牧草の花粉が原因だそう

5. 散りゆく前に

実は、着任以来、私の顔を見るたびに、「お花見をしましょう。」と働きかけてくる豪州人女性があります。日本在住が長かった方で、散りゆく花を愛でる感性と、仲間で花見を楽しむスタイルに強く惹かれている模様です。

そこで、今月下旬には大使公邸の庭を開放して、お花見レセプションをすることとしていましたが、ロックダウンが10月15日まで延長されたため、今年の花見は難しくなりました。

「ウィズ・コロナ」豪州社会もコロナとの共存に舵を切り始めた今、新たなライフスタイルを一日も早くスタートできることを期待しています。



大使公邸のソメイヨシノと八重桜

山上信吾